

令和4年度 えびの市立上江小中学校 「学校運営協議会評価書」			自己 評価	外部評価		
項目	重点目標と主な達成手段	具体的な取組と達成目標		成果と課題 ※4段階評価	評価	コメント
【学校教育目標】 グローバルな視野をもち、主体的に活動するたくましい上江っ子の育成 【めざす児童生徒像】 ○ 礼儀正しく、元気のある子 ○ 目標をもって、自ら学ぶ子 ○ 責任をもって、確実にやり遂げる子						
学力の 向上	【目標】 小中一貫校の特色を生かし、個に応じたきめ細かな指導の充実を図り、基礎・基本の定着を目指す。 【手段】 1 小中の積極的な交流授業により、系統性・継続性のある教育課程の実施・充実を図る。 2 個に応じた指導を充実させるため、指導方法の工夫や時間の確保を図る。 3 個に応じた家庭学習の充実を図る。	【具体的な取組】 ○ 小中で系統性・継続性のある教育課程の実施・充実を図る。小中教員による乗り入れ授業を実施する。(小→中・音楽 数学 中→小・家庭科) ○ 1人2回の授業研究を行い、授業の工夫改善(授業力向上)に努める。 ○ 個に応じた指導を充実させるために、算数・数学科において、少人数指導を実施する。また、ALT や英語支援員・学習支援員を効果的に活用する。 ○ 家庭学習強化週間や家庭学習の手引きを配付し、家庭学習の充実を図る。(小学部のみ) 【達成目標】 ○ 全国・県及び市の学力検査でそれぞれ平均点以上を目指す。	● 全体的にみると、県や市の平均なみであるが、学年によっては、平均を超えられなかった教科もあった。 ○ 乗り入れ授業は計画的に実施できた。今後も継続し、小中のスムーズな連結を図りたい。 ○ 1人2回の研究授業も実施することができた。異校種の授業研究でお互いに刺激を受け、日々の授業に活かされた。 ● ほとんどの学年で学力の二極化傾向にある。個別指導等充実させたい。 ○ 「英語表現科」の指導をとおして社会が求める実践的な英語力の育成に努め、英語検定に積極的に挑戦させた。(50名中、準2級5名、3級11名、4級9名、5級23名取得)	3	3	○ 学力には個人差があるとは思いますが、個に対応した指導で、どの学年も更に学力を伸ばしてほしい。 ○ 上江の風土として、学年が上がるにつれて少しずつ学習に対する意識が高まっていく傾向があるかもしれない。 ○ 上江地区の雰囲気は、保護者が少年団等のスポーツに力を入れている印象。保護者も文武両道を意識することが大切である。 ○ 学習面は最初につまずくと後になって苦勞するので、低学年の頃から基礎学力を身に付けさせることが大切である。
豊かな 心の育成	【目標】 小中一貫校の特色を生かし、連続的で徹底した指導の充実を図り、豊かな心の育成を目指す。 【手段】 1 元気のよいあいさつの励行と、基本的な生活習慣の定着を図る。 2 積極的な読書活動の推進を図る。 3 望ましい人間関係の醸成に努める。(ピア・サポート推進校としての積極的な取組)	【具体的な取組】 ○ 中学部の「あいさつ運動」を通して、相手の目を見て、元気よくあいさつすることができる児童・生徒の育成を図る。 ○ 読書月間・小学生への読み聞かせ・ビブリオバトルなどの活動を通して、読書への意欲付けを行う。〔読書活動推進事業〕 ○ 「ピア・サポート活動」に関する教育活動を行い、思いやり、助け合い、支え合う人間関係を育てていく。 【達成目標】 ○ 徳に関するアンケートで8割以上の児童・生徒が肯定的に回答する。 ○ 読書量昨年度以上。	● 「自分にはよいところがある。」と肯定的に答えた児童・生徒は、それぞれ7割6割であった。今後も継続して、児童・生徒を認め、励まし、自己肯定感を高めていきたい。 ○ 読書量は、小学部・中学部ともに昨年以上となった。読書意欲を高めるための手立て等工夫できた。 ○ あいさつ運動やピア・サポート活動等今後も継続していきたい。	3	3	○ 本を学校から定期的に借りては来るが、家では読んでいないようだ。 ○ 児玉組からの図書寄付はとてもありがたい。 ○ 子ども達のあいさつは、他の地区と比べると、よくできていると感じる。
体力の 向上	【目標】 小中一貫校の特色を生かし、体力向上プランの確実な実施と生活リズムの向上を図る。 【手段】 1 保健体育の授業をはじめ、体力づくり活動の工夫改善を図る。 2 食育や自己管理能力の育成、立腰指導の充実を図る。 3 昼休みの外遊びや部活動を奨励する。	【具体的な取組】 ○ 体力向上プランをもとに保健・体育学習の充実を図り、運動の楽しさを味わわせるようにする。 ○ 合同運動会や合同ロードレース大会に向けて体力を高める意欲をもたせる。 ○ もぐもぐ日記(小学部)と弁当の日(中学部)を通して、食に関する関心を高めるとともに学級指導で食育を充実させる。 ○ 授業の始まりと終わりに立腰指導を行い、立腰姿勢の習慣化を図る。 【達成目標】 ○ 体力テストで昨年度以上の結果を目指す。 ○ 遅刻・欠席を減らす。	● 学年種目によっては、県平均を上回っているが、昨年度に比べるとD段階やE段階の児童・生徒が若干増加している。 ○ ロードレース大会及び縄跳び運動に意欲的に取り組んだ児童・生徒が多かった。外で遊ぶ子どもたちも増えている。 ○ スマホ・ゲームの長時間使用や家庭での決まりなどメディア指導員の講話により、家庭への啓発ができた	3	3	○ 縄跳びのことを家庭で子どもが話題にしている。競い合う意識があるということはとても良いことだと思う。 ○ ロードレース大会も是非、順位をつけてほしい。 ○ 端との競争だけではなく、自分が掲げた目標タイムにどれだけ迫れたかというやり方もそれはそれでよい。 ○ 少人数だからこそ鍛えることが大切である。
地域に 貢献する人 材の育成	【目標】 小中一貫校の特色を生かし、地域人材の活用や地域との連携の充実を図る。 【手段】 1 「えびの学」を充実させるとともに、系統的なキャリア教育の推進を図る。 2 地域学校協働活動の充実を図る。 3 児童会活動と生徒会活動の連携・充実を図る。	【具体的な取組】 ○ 地域学校協働活動や関係機関の外部講師を活用し、学習をより効果的・効率的に行う。 ○ 「えびの学」を通して、えびののよさを知り、そこで働く人のやりがいや苦勞を理解することで、子ども達自身の生き方を考える機会とする。 ○ 児童会・生徒会活動を通して、主体的な活動を促し、達成感や成就感を味わわせる。地域貢献活動を通して、地域に感謝する気持ちを高める。 【達成目標】 ○ 各学年・各学部で体験学習や地域貢献活動を実施する。	○ 「えびの学」の計画的な実施により、地域のよさを感じ、えびのについて考えることができた。これからのえびのについて考えることができた学年もあった。 ○ 地域貢献活動は実施できたが、今後、児童会や生徒会が主体となった活動ができるようにしていきたい。 ○ 外部講師や関係機関の協力により、学習が充実した。	3	4	○ どの学年も地位域の素材を生かした学習活動や地域の人材を生かした交流学習に取り組んでいてよい。